



# 東京の会通信

## No.262

2015年9月1日号  
(隔月1日発行)

発行：公的骨髄バンクを  
支援する東京の会  
〒162-0065 東京都新宿区  
住吉町10-8 第1菊池ビル302号  
TEL：03-3354-6377  
(FAX兼用)



http://www.marrow.or.jp/tokyo/  
e-mail:marrow\_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

## 東京の会第26回定期総会を開催

6月27日、公的骨髄バンクを支援する東京の会は第26回定期総会を開催しました。午後1時、司会の櫻井洋子さんによる開会宣言のあと、議長に櫻井正和さんを選出して、議事に入りました。

まず、若木代表代理から2014年度の活動報告がありました。活動報告の中では、昨年度の活動の大きな成果である、東京都議会への「骨髄移植ドナーに対する制度創設に関する請願」の経過と新設された「骨髄移植ドナー支援事業」について、詳しく報告がありました。

続いて中谷監事から業務監査報告、大塚会計担当から2014年度会計報告がありました。残念ながら昨年度は268,889円の赤字決算となりました。財源確保のため、会費や寄付等収入の増大や経費削減が課題となっています。会計監査報告は監事が2名とも欠席のため大塚会計担当が代読しました。

次に、二見事務局長から2015年度活動方針（案）の提案を行いました。今年度は制度化された東京都の「骨

髄移植ドナー支援事業」を、各区市町村において実際に導入してもらう取組が重要です。

各議案とも質疑ののち承認され、2015年度の役員を選出して議事を終了しました。続いて三瓶代表より挨拶があり、2015年度宣言を福永さんが読み上げ、拍手で確認され、第26回定期総会を閉会しました。なお、各議案の内容を掲載しましたので、ご確認ください。

### ギリシャ神話とHLAの関係とは？

総会後の第2部として、恒例の記念講演会が行われました。今回は、HLA研究所所長の佐治博夫先生に「HLAは、プロメテウスかエピメテウスか？」と題する講演をしていただきました。佐治先生は白血球抗原（白血球の血液型）であるHLAの専門家です。

プロメテウスとエピメテウスはギリシャ神話の神で兄弟です。プロメテウスは人間を創造し、火を与えた人類の恩人です。プロメテウスとは「先に考える者」という意味です。一方弟のエピメテウスは、「後から考える者」という意味で、動物にあらゆる能力を与えてしまい、人間に与えるものがなくなってしまいました。そこでプロメテウスが天界の火を盗んで人間に与えたのですが、これが主神ゼウスの怒りを買って、永遠に続く拷問を受けることになってしまいました。のちにこれを救ったのがヘラクレスでした。

また、エピメテウスはゼウスから人間の女性パンドーラを贈り物として受取りましたが、このパンドーラが好奇心から世にいう「パンドーラの箱」を開けて



日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー  
(平成25年7月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	452,954	57,356	45,589
6-7月登録分	4,814	513	579
6-7月抹消数	3,855	477	—
実質登録増	959	36	—

### 患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	644,420人
ドナー登録抹消者数(累計)	191,466人
HLA適合報告ドナー数(累計)	246,641人
実質登録患者実数(現在)	2,953人(国内1,520人)
HLA適合患者数(累計)	36,605人(患者累計数の80.3%)
非血縁移植実施数	18,489例(6-7月実施236例)

しまったため、「憎悪」「嫉妬」などあらゆる負の感情や疫病などの災厄が人間界にばらまかれ、最後に残ったのは「希望」だけだったという話もあります。では、これらのギリシャ神話のエピソードとHLAがどう結びつくのでしょうか。



講演では、特にHLAの進化の起源と多様性の進化について詳しくお話がありました。学問的でかなり難しいところもありましたが、要約すると以下の通りです。

HLAは自己と他者を認識するマーカー（組織適合性抗原）として機能しており、移植や輸血の際に型を合わせる必要があるのはご存じのとおりです。また、HLAは「免疫グロブリン」「T細胞レセプター」とともに免疫システムを担っています。HLAは脊椎動物の進化の初期に遺伝子重複によって誕生し、その後もウイルスや細菌、寄生虫などのパラサイトに対応するために、遺伝子重複と対立遺伝子の多様化を繰り返してきました。

HLAは、パラサイトからの生体防御能力を飛躍的に高めたという点で「プロメテウスの火」のようなものですが、一方で対抗するパラサイトの進化も促して悪循環におちいってしまい、また自己免疫疾患の原因や組織適合性抗原として移植時の障害となるなど、エビメテウスとパンドーラがもたらした災厄という見方もできます。

しかし、HLAの進化という面では、進化は常に中立であり、環境など無作為の影響を受けた結果であることから、プロメテウス（予見するもの）ではなく、エビメテウス（あと知恵）といえる、というのが結論でした。

私たち骨髄バンクのボランティアは、HLAは白血球の型で適合しないと移植ができないものとして理解していますが、HLAの本来の役割は免疫機能であり、

HLA進化による多様性が人類を疫病などから守ってきたことが、ギリシャ神話になぞらえたお話でよく理解できました。（二見茂男）

## 美しい音色が会議室の中に

例年の総会の後は記念講演会があり、それでおしまいです。今年はその後ハンドベルの美しい調べが会議室内を満たしました。

横浜を拠点に活動している『しろさとハンドベル』の会が特別出演してくださいました。この会は会員の松坂さんのお母様が教えておられるハンドベルの会で活動歴は10年になり、この日の参加者は9人でした。

賛美歌から始まり、「アメイジンググレース」、みんなのよく知っている「翼をください」、「サザエさんのテーマ」、「バッハのカンタータ(主よ、人の望みの喜びよ)」等。曲と曲の合間にハンドベルは1967年に輸入されて日本に広まったこと、銅と錫の合金でできていて、少しの衝撃で変形したり、割れたりするので、まるでマットレスのような分厚いふかふかの台が必要なこと等豆知識が披露されました。

「翼をください」は骨髄バンク活動の折によく歌われる歌で、みんなで合唱しました。最後は「ふるさと」を演奏してくださいました。

この美しい音色を紙面に再現できないのは残念ですが、本当にありがとうございました。もう少し聴衆が多いともっと良かったのと思いました。また来年もお待ちしております。（中谷光子）



## 東京の会 「9月、10月定例会」 のお知らせ

9月26日（土）、10月24日（土）午後5時30分より

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※11月定例会予定・11月21日（土）午後5時30分より

（11月は会場の都合により第3土曜日になります）

## 11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

10月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

11月7日（土）13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※2016年1月「おりおり」予定・1月9日（土）13時00分より

新しい方歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

# 2014年度 東京の会 活動報告

2014.4.1～2015.3.31

## 1 総会・定例会・おりおり(会報発送作業)

- (1)定期総会 第25回定期総会 6/28開催 (於:全労済東京会館会議室)
- (2)定例会 毎月第4土曜日12回開催 (於:全労済東京会館会議室)
- (3)おりおり 隔月第1土曜日6回開催(奇数月)(於:品川運輸会議室)  
(東京の会会報・骨髄バンクニュース・さい帯血バンクニュース等、発送作業)

## 2 ドナー登録会

- (1)日赤献血ルームでの献血・骨髄バンクドナー登録推進活動
    - 5/31(土) 有楽町献血ルーム  
献血者不明 ドナー登録者18名
    - 9/20(土) 有楽町献血ルーム  
献血者204名 ドナー登録者11名
    - 10/11(土) 新宿東口献血ルーム  
献血者155名 ドナー登録者13名
    - 12/13(土) 有楽町献血ルーム  
献血者不明 ドナー登録者16名
    - 2/21(土) 新宿東口献血ルーム  
献血者147名 ドナー登録者21名
    - 3/14(土) 新宿東口献血ルーム  
献血者160名 ドナー登録者21名
- 2014年度実績 ドナー登録者100名

## 3 患者支援活動

- (1)医療その他セミナー
  - 6/28 第25回定期総会後の講演会で、患者さん含むボランティアのための講演会  
「最新移植医療の現場から」虎の門病院血液内科部長 谷口修一先生  
「献血事業の概要と課題」東京都赤十字血液センター 献血推進一部推進課長 乙訓高一先生  
「さい帯血バンクの現況と課題」全国骨髄バンク推進連絡協議会 理事長 野村正満氏

## 4. 普及広報活動

- (1)会報「東京の会通信」発行
  - 隔月1日発行(奇数月)／第1土曜日発送6回発行。
  - 2015年3月号まで259号発行
  - 会報と共に、骨髄バンクニュース、さい帯血バンクニュース、その他適宜、発送
- (2)セミナー・イベント開催および参加
  - 6/21 全国協議会主催「全国骨髄バンクボランティアの集いin醍醐寺」に参加。

全国協議会・仲田順和会長が座主を務める世界文化遺産の古刹・醍醐寺での開催でした。しかも国宝が並ぶ霊宝館で、200名の全国のボランティアが集う中、医療講演や記念演奏等が行われました。終了後は、修証殿で懇親会が盛大に盛り上がりました。

- 6/22 全国協議会2014年度通常総会・全国代表者会議出席(京都市醍醐寺・修証殿)
- 9/20 新宿熊野神社祭礼・西口陸イベント会場で骨髄バンク普及啓発活動。2万円の寄付をいただき、新宿献血ルームでドナー登録できることを案内するとともに募金活動。
- 9/28 しながわ宿場まつり 東京港南マリンロータリークラブの骨髄バンクチャリティバザーに参加。長野松川で仕入れた果物や新鮮野菜を販売。すでに常連となるお客さんが多数訪れ早々に完売。パレードにも参加し、のぼりを持ってティッシュ配布、骨髄バンクをPR。バザーの売上金から東京の会に多額のご寄付をいただきました。
- 10/20 国立競技場が改築のため、駒沢オリンピック公園陸上競技場で開催された2014グリーン・リボン・ランニングフェスティバル、全国協議会との合同チームで参加。6人が交代で3時間走り続ける耐久レースに参加し、見事完走しました。
- 11/9 「バラのかおりのコンサート」ピアノ三重奏コンサート(於:発明会館ホール)  
発明会館で2回目の開催。昨年の経験を活かして、会場の飾り付けや手作りのバラをあしらったグッズもたくさん用意されました。三戸素子、小澤洋介、コルネリア・ヘルマンのトリオが素晴らしい演奏を!
- 11/8～9 「SNOW BANK PAY IT FORWARD 2014」(於:代々木公園)に参加。荒井daze善正さん(元患者・プロスノーボーダ)が発起人のスノーボードイベント。今年代々木公園の「 Deng熱」騒動で献血車が会場入りできず、登録会は急ぎよ中止に。その代り登録説明会をおこない、2日間で122名が説明を聞き登録申込書にサインしてくれました。全員が献血ルームで登録してくれることを祈りましょう。今回で4回目。参加するボランティアも増え、秩序ができてきました。
- 11～12月 松川アップルズのご協力で、市田柿(生産者竹村美佐子さん)のチャリティー通

信販売による支援活動を実施

- 1/2・3 箱根駅伝沿道にて普及啓発（田町・箱根宮ノ下）および募金活動（箱根宮ノ下）
- 2/22 東京マラソン沿道応援。スーパーマンに扮した宮城順さんとナースに変身した埼玉の会早川美奈子さんが(10km)タスキをかけて爆走！曙橋で二人を応援しました。
- 2/22 全国協議会関東ブロックセミナー（於：横浜関内）関東近県ボランティア団体が参加。ドナー支援制度や日常の活動など幅広く意見交換。
- 3/8 東京新都心ライオンズクラブ他東日本大震災復興支援チャリティー「私たちは忘れない3・11」テントを提供いただきチラシとティッシュ配布。産地直送の野菜や日本酒を購入し、宮城・石巻の復興に協力！（於：新宿中央公園水の広場）

## 5. 関係機関への要請・請願・陳情活動

東京都議会に対し、「骨髄移植ドナーに対する制度創設に関する請願」をおこないました。都議会の各会

派に協力要請して9月26日に都議会に請願を提出しました。その後、11月27日の厚生委員会では全会一致で趣旨採択され、12月25日の都議会本会議で採択されました。これにより2015年4月より東京都全区市町村で「骨髄移植ドナー支援事業」に対して東京都が補助する環境が成立しました。昨年4月より東京の会として取り組みを開始し、7月から9月の暑い時期に都議会に何度も足を運び支援を訴えたり、予算に関する要望などで要請行動を繰り返したことが今回の実現につながりました。

「骨髄移植ドナー支援事業」では、ドナーが骨髄提供する場合、通院や入院など1日に付きドナーに2万円、ドナーが従事する事業所等に1万円、かつ7日間を超えない額が支給されます。支給額の半額は東京都が助成する仕組みです。ただしこの制度を区市町村が導入しなければならず、現在は、以前より制度導入している稲城市のみが対象となります。この間、東京特別区長会・東京市長会・東京町村会に対して実施の要請を行いましたが、2015年度実施は持ち越しとなりました。次年度に向け、さらに市区町村での制度導入を要請していきます。

# 2014年度 決算報告

【収入の部】		【支出の部】		【資産増減明細】		
会費	249,000	収益事業費	296,107	資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
寄付	1,165,685	物品仕入費	74,416	現金	0	0
物品売上	84,996	普及広報費	501,057	郵便振替口座	10,000	43,000
事業収入	473,600	通信発送費	357,365	郵便貯金	2,587,515	2,733,544
受取利息	553	業務諸経費	111,387	普通預金	267,627	340,282
助成金	0	交通費	180,350	貯蔵品	186,330	188,535
小計	1,973,834	全国協議会会費	120,000	敷金	45,000	45,000
合計	1,973,834	貸借料	576,000	前受会費	-21,000	-6,000
		支払手数料	8,594	差引	3,075,472	3,344,361
		損害保険料	5,100	当期剰余金		-268,889
		雑費	12,347	合計	3,075,472	3,075,472
		小計	2,242,723			
		当期剰余金	-268,889			
		合計	1,973,834			

<収支差額>  
収入-支出=-268,889

<資産増減>  
期末-期首=-268,889

# 2015年度活動方針

## 〈1〉骨髄バンクの普及啓発活動

骨髄バンクへのドナー登録や骨髄提供に対する市民や社会の理解を深めるため、イベントの開催や地域における普及啓発活動、会報やインターネットを活用した情報発信をおこないます。特に若年層への普及啓発を強化します。

## 〈2〉ドナー登録推進

骨髄バンクのドナー登録者数は45万人を超えました。移植に至る患者さんは約6割にとどまっています。日本骨髄バンクや近隣ボランティア団体などと連携し、登録会へのボランティアの派遣をおこないます。

また日赤の協力の下、都内献血ルームでドナー登録を呼び掛ける活動を継続します。

## 〈3〉患者・患者家族への支援と情報提供

さまざまな状況下の患者・患者家族の皆さんが、難病と向き合い闘病ができるよう、情報提供や支援活動、患者負担金の軽減にむけた活動を積極的におこないます。また患者会等と連携をはかり、患者さんの現状を理解するとともに、共同の取り組みをおこないます。

## 〈4〉より機能する移植医療を目指して

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行を踏まえ、骨髄・さい帯血バンクの

一体的運営や窓口の一本化、日赤による骨髄ドナーリクルートなど、さらなる患者救済につながる政策の実現を求めます。また、都内区市町村に対し、今年4月から開始された東京都による助成制度を活用したドナー給付制度の導入を求める取り組みを行います。

#### 〈5〉会報の発行

会報「東京の会通信」を発行し、患者・ドナーのメッセージや活動報告を伝えながら、造血幹細胞移植医療

の様々な課題に対する提言をおこないます。

#### 〈6〉活動の活性化と他組織との連携、財政基盤の強化

各ボランティアの活動を支援・協力し、新たな視点を持つ新規会員の募集をおこないます。また、他の組織との交流や活動の協力関係を強化し、活動を活性化します。財政基盤の立て直しのため、経費の見直し、会員増や寄付の確保につとめます。

## 2015年度東京の会役員

《代 表》 三瓶 和義

《代表代理》 若木 換

《事務局長》 二見 茂男

《会 計》 大塚 礼子

森永 富美子

《会計監査》 大塚 和博

竹村 政明

《業務監査》 及川 耕造

中谷 哲郎

《顧 問》 野村 正満

新田 恭平

## 2015年度・東京の会宣言

私たち「公的骨髄バンクを支援する東京の会」は、2015年度の活動を開始するにあたり、以下のとおり宣言します。

- 1.患者救済とドナーの安全を活動理念とし、造血幹細胞移植医療を必要とするすべての患者さんが、希望する治療を受けられるよう、ドナー登録を推進し、環境整備や制度確立を目指して活動します。
- 2.広く社会に対し、血液難病や造血幹細胞移植医療

に対する理解を深める活動をおこないます。特に、若年層に向けて発信し、次世代につながる活動を目指します。

- 3.患者擁護の立場に立ち、どんな困難にも臆せず、明るく楽しい活動を展開していきます。

## 2015年度献血ルームにおけるドナーリクルート活動

東京の会では、2011年度は都内4箇所の献血ルームで計7回、2012年度は5箇所で計7回、2013年度と2014年度は2箇所で交互に6回、ドナー登録推進活動を計画し、実施しました。各ルームで献血募集のお手伝いをしながら、普及啓発活動が実施できました。その結果、2011年度115名、2012年度99名、2013年度108名、2014年度は100名のドナー登録者を得ました。

ドナー登録推進活動は一時的なものではなく、今後も継続して実施していく必要があります。またこれまでの活動でノウハウも蓄積されつつあり、徐々に成果が上がってきています。「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行に伴い、ボランティアの役割も変わることも考えられますが、適切に対応して今後も活動を継続して行く予定です。

ただ、骨髄バンクができて四半世紀がたち、世の中全体の骨髄バンクに対する関心がマンネリ化してきている感じがあり、従来と同じパターンの普及広報活動で良いのか、検討する必要があるのではないかと考えています。

取りあえず、新宿東口、有楽町など都内の有力献血ルームの協力を得て、若年層への献血と骨髄バンクドナー登録推進活動を実施することを計画し、活動させていただきようお願いします。

16時過ぎから献血者が増える傾向があるので、昨年からの活動時間を10時30分から16時30分に30分繰り下げで実施しています。目標登録者数は120名です。

(新田恭平)

#### 〈今年度の活動予定〉

6月20日(土) 新宿東口献血ルーム  
ドナー登録者20名

7月18日(土) 新宿東口献血ルーム  
ドナー登録者25名

～～ここまで実施済み～～

9月12日(土) 有楽町献血ルーム

10月17日(土) 〃

12月19日(土) 新宿東口献血ルーム

2月12日(土) 有楽町献血ルーム

## ドナーさんに今の私を伝えたい

# Message from Recipient

田中 美優

私が白血病を発病したのは、19歳の夏の初め頃でした。当時、短大に通っていた私は、なかなか治らない風邪に悩んでいました。微熱の症状だけがずっと続き、薬を飲んでも平熱に戻らず、身体も熱に慣れ始めてしまったのではないかという頃に血液検査をして頂き、数値の異常に気が付きました。

すぐに大きな病院を紹介され、訳も分からないまま骨髄検査をし、その日のうちに入院することになりました。そこではじめて「急性骨髄性白血病」という自分の病気を知ることになりました。当時、白血病といえばドラマや映画の中の世界で、まさか身近で、ましてや自分がという気持ちでした。

治療が始まると、副作用も色々出てきました。吐き気などは比較的軽いほうだったと思います。でも今までに経験をしたことのない船酔いのような状態はずっとありました。しばらくすると髪も抜け始めました。抜ける前は、また生えてくるから大丈夫という気持ちでいましたが、実際に抜けるとショックでいっぱいでした。朝起きた時の枕もとを見るのが辛かったです。

5回の化学療法を重ね、無事寛解を維持できる状態になりました。退院後は、少しずつ体力を戻し、休学していた短大へ復学することが出来ました。片道2時間の通学は、良いリハビリにもなったと思います。何より、毎日学校へ通える喜びを感じていました。

短大の卒業が近くなった頃、身体の調子がいまいちな時が続きました。こんな時の外来はとても怖かったです。そして一番恐れていた事が起きました。「再発」です。先生から話があっても言葉も何も出ませんでした。初めて白血病と聞いた時よりも、再発という言葉の方が重く感じました。

それからは骨髄移植に向けての準備にはいりました。卒業式に出られるように治療を進めて下さった先生にはとても感謝しています。白血球の合う方も私の場合は何十人もいらっしゃるという事でとても恵まれていたと思います。移植の前処置で身体が辛くなると聞いていたので、その前に

ドナーさんへの手紙を書いたのを今でも覚えています。あの時、再発をし不安でいっぱいでしたが、ドナーさんがいてくださる事で安心感をっていました。

移植当日は、大雨で風も強く、ドナーさんの骨髄液を運んでいる新幹線も遅れ、到着を今か今かと待っていました。無



事届いた骨髄液が、身体に入ってきた時の温かさ、感動は今でも忘れる事が出来ません。それからしばらくは熱が出たり身体が辛くなることはありましたが、ドナーさんの骨髄が生着すると熱も落ち着き始めました。健康な血液はこんなにも身体を楽にしてくれるのかと思いました。

退院後は、肺炎になったりしましたが、心配していたGVHDもほとんどなく、目標としていた5年を無事迎えることが出来ました。以前と同じようにとはいきませんが、それに近いぐらい体力も戻りました。何より精神的、気持ちの面でとても強くなったと思います。

今は医療事務として働き始めて4年経ちます。こうして働くことが出来るのもドナーさんがいてくれたからだと思っています。手紙のやり取りの中でドナーさんは、私や私の両親の事をとても気にかけている内容ばかりでした。そのドナーさんに、「あなたのおかげで毎日仕事をして、毎日楽しく過ごすことが出来ています。ありがとうございます。頂いた命を大切に、笑顔いっぱいの毎日を過ごしていきます。」と、あの後伝えることが出来なかった今の私を伝えたいです。

移植から5年以上経ち、健康で過ごす事が出来ている今、ドナーさんへの感謝の気持ちがより強くなりました。本当にありがとうございました。

## 「バラのかおりのコンサート」のチラシ完成!

東京の会の秋の恒例行事、ピアノ三重奏チャリティコンサートの開催が2ヶ月後に迫って参りました。

すっかり定着した「バラのかおりのコンサート」、祝日の午後、バラのかおりと素敵な音楽のひと時をお楽しみ下さい。



今年のピアニストは高田匡隆さんです。国内外でご活躍され高い評価を得ている高田さんは、現在、桐朋学園大学と武蔵野音楽大学ピアノ科にて後進の指導にもあたられています。今回、三戸さんと小澤さんがこのチャリティーコンサートを始めるきっかけとなった故・金井いづみさんのご友人からの紹介で、快くピアニストを引き受けて下さいました。コンサートの意義をご理解いただき、考えに賛同して「喜んでご協力します」と言って下さったそうです。新たなトリオによるピアノ三重奏を、どうぞお楽しみに!

また、素敵なチラシも刷り上がりました。今号に同封させていただきましたので、出演者のプロフィールやコンサートの詳細はそちらをご覧ください。

日時 2015年11月23日(月祝)14:00開演(13:30開場)  
場所 発明会館ホール(地下鉄「虎ノ門」駅 徒歩5分)  
出演 ヴァイオリン 三戸 素子/チェロ 小澤 洋介/ピアノ 高田 匡隆

料金 前売券 3,000円(当日券 3,500円) 全席自由  
今年もロビーでは、中澤ナーセリーさんの素敵なバラの花束や、手作りのバラグッズを販売予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

### 心のコもったご寄付ありがとうございました。(2015.6.16~8.15)

田辺功さん 5,000円/柴谷春子さん 2,000円/笠間義男さん 4,000円/南川英則さん 3,000円  
松阪照子さん 10,000円/新田 恭平・雅子さん 10,000円/中谷哲郎・光子さん 6,000円  
三瓶和義さん 7,000円/二見茂男さん 5,000円/大橋一三さん 2,000円/山崎 裕一さん 10,000円  
及川耕造さん 43,500円/河村朝子さん 5,000円/穴戸知美さん 2,000円/東京の会有志(16名) 24,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

### 東京ドナー登録会予定(9月・10月)

9/5(土) 尾久消防署(荒川区)  
9/19(土) 横田基地友好祭(福生市)

10/14(水) 赤羽駅東口(北区)  
10/18(日) 小平市民祭り(小平市)

## 東京の会10周年記念出版 『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髄バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の一冊。本屋さんでは取り扱っていません。あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価: 1500円  
送料: 300円  
10冊で12,000円(送料込)

# 編集者 雑記



▼日本骨髄バンク（財団）の平成26年度決算は、1億533万円の赤字となりました。このままの収支が続けば、資金ショートを起こす可能性もある、とのこと。もしそんなことになれば、骨髄バンクの機能が停止し、骨髄移植を待つ患者の希望が失われてしまうこととなります。突然とも思える財政危機はなぜ起こったのでしょうか。

▼その大きな原因は2つあります。1つは寄付金の減少です。前年度は遺贈で2億3,000万円超の寄付という特殊要因があったため寄付金が多かったのですが、2014年度は前年度対比で1億3,000万円減少、予算対比では賛助会費収入等とあわせた寄付金総額で4,500万円のマイナスとなりました。寄付は水物とはいえ、結果として寄付収入の読みが甘かったということになります。

▼もうひとつの原因は、移植数の減少を予測できなかったことです。平成26年度の骨髄バンクを介した非血縁者間の移植数は1,331件で前年度より12件減少しました。その結果、予算対比で患者負担金収入が3,900万円、医療保険財源収入が1,350万円のマイナスとなりました。

▼骨髄バンクを通じた移植数はこの10年間で平成22年度を除いて毎年増加してきました。ここへきて減少に転じた理由として、移植までに時間がかかる骨髄バンクが敬遠され、さい帯血移植やハプロ移植（親子・兄弟間の半分ミスマッチの移植）を選択する患者や医師が増えたという見方があります。加えて骨髄バンクにはさい帯血バンクにはない患者負担金もあります。

▼一方支出は前年度から6,600万円増加し、前年度8,800万円の黒字から1億500万円の赤字に転じたため、基本財産や積立金等を除くキャッシュフローが1億3,000万円から7,700万円まで一気に減少してしまいました。これは16億円の事業規模を持つ組織としては危機的な状況です。

▼このため、財団は6月の理事会で10月から患者負担金を値上げすることを決定しました。具体的にはドナーの一般血液検査料を1名あたり5,000円から8,985

円にするというもので、モデルケースで患者負担金は約16,000円の値上げとなります。

▼財団が検査会社に支払っている検査料はもともと8,985円で、財団が負担していた差額を患者負担とするという説明がされていますが、患者負担が増えることは間違いありません。以前から「患者負担金をなくすべきだ」と主張している私たちボランティア団体としても、簡単に納得するわけにはいきません。では、それ以外の対策はどうなっているのでしょうか。

▼財団は緊急措置として職員の夏季賞与を1.975ヶ月から1.100ヶ月に削減しました。年間では4.1ヶ月から3.1ヶ月に削減し、コーディネーター研修会実施見送り、コーディネーターの活動費や地区普及広報委員・説明員の日当の減額、その他の経費見直しによる合計約7,000万円の支出削減案を9月の理事会に諮る予定です。

▼地区普及広報委員・説明員の活動費はともかく、いきなり職員の賞与を1ヶ月もカットすることは、士気の低下にもつながりかねず、経営としてあまりに安易ではないかという気がします。患者負担金の値上げとあわせて、再考を促したいと思います。他に削減可能な経費はないのか、詳細に検討すべきです。ちなみに6月の理事会ではシステム関係の多額の積立金や支払手数料が監事の一人から問題提起されていました。

▼そもそも、寄付金、患者負担金、医療保険収入、国庫補助金を合わせて賄われている財団の財政構造そのものが大きな問題をはらんでいます。寄付金が減り、移植が減って患者負担金と医療保険収入が減っても、その分国庫補助金が増えるわけではありません。不安定な寄付金が財源の多くを占めている実態は、法律に基づき国の責任で行われている、国民の命に係わる事業のあるべき姿とは程遠いと思います。

▼最も根本的な解決方法は、骨髄液や末梢血幹細胞を薬剤として保険点数をつけ、骨髄バンクを通じた移植に必要な費用すべてを医療保険で賄うことです。これは総会後の講演で佐治先生もおっしゃっていました。そしてその事業の担い手は、薬剤として血液製剤を製造している日本赤十字社とするのが一番です。ドナー登録推進も日赤の業務とすれば登録数は大幅に増えるでしょう。現状のシステムを前提とするのではなく、今こそ新たな展開が求められているのではないのでしょうか。(s)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。  
皆様からの善意をお待ちしております。

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**